

©朝日新聞社



今日であと600日

東京オリンピックピック開幕

2020年東京オリンピック(五輪)の開幕まで、今日であと600日になりました。東京都江東区の有明地区では、とまり合う体操とバレーボールで使う会場の建設が進んでいます。

写真手前は体操の会場となる「有明体操競技場」。大会後10年間は、東

京都の展示施設として活用されるといいます。道路の向こう側はバレーボールの会場となる「有明アリーナ」です。大会後はスポーツ大会のほか、コンサート会場にも使われる予定です。それぞれ来年10月と12月に完成予定です。

この二つをふくめ東京五輪会場は42か所あります。



朝小リポーターの岸田和音さんが飼っている、アカミミガメの「ロバ」さん＝本人提供



©朝日新聞社

アカミミガメ

またの名を...ミドリガメ

環境省が輸入・飼育の規制検討

「ミドリガメ」とも呼ばれるミシシippアカミミガメは、もともとは海外から輸入された外来種です。今では、日本の生態系や農業に悪い影響をあたえるやっかい者。環境省は法律で輸入や販売、飼育を規制することを検討中です。もし、規制されたら、飼っている人はどうしたらよいのでしょうか。専門家に話を聞きました。(八木みどり)

野外に放され農業・在来種に影響

申請すれば飼いつづけられる

アカミミガメは、1950年代後半から輸入されるようになりました。かつてはお菓子の景品として配られたり、ペットとしてブームになったりしたことで、日本全国で飼育されるようになりました。

やがて、外へ放してしまいう飼いが出てきて、野生のアカミミガメが増えていきました。日本にもともといたカメとすみかを争った結果、アカミミガメの方が増えてしまっています。農作物の芽を食べてしまうなどの被害も出ています。

こうした状況から、環境省では2015年からアカミミガメ対策推進プロジェクトを始めました。今後はアカミミガメを特定外来生物に指定することも視野に入れつつ、対策を検討しています。

最後まで育ててね!



環境省が作った、啓発用のチラシ。カメが死ぬまで大切に飼いつけてもらいたいとの思いから、カメをかわいらしくえがいています。環境省提供

捨てる人や売る側の責任も

アカミミガメ問題について対策に取り組んでいる、東京都武蔵野市のNPO法人生態工房の片岡友美さんは「もし、規制されるとしても、事前に告知があり、きちんと知らせがされていくので、ある日突然、飼えなくなる...なんてことはありませぬ」と話します。

アカミミガメを飼っている朝小リポーターの岸田和音さん(千葉県船橋市立薬田台南小6年)は、アカミミガメが悪者あつかいされているのを見ると、いやな気持ちになるといいます。「捨てる人や、人の顔より大きくなるのに、それをきちんと伝えなくて売っている側にも問題があると思えます」と憤ります。

片岡さんも「気軽に売

朝日
小学生
新聞

2018年12月2日 日曜日 (平成30年)

©朝日学生新聞社

東京本社 〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2
大阪支社 〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18
電話 03(3545)5223(広報) 06(6202)3893(大阪)
記事についてのお問い合わせは03(3545)5222(編集)

ピックアップ
3面
新・世界の
おうち探検

ドキドキ 書店 2面	特別編 まんが日本の歴史 5面
大感賞 7面	まんが 乱太郎 8面
音楽はお好き? あれ? 楽譜がちがって いるよ 8面	

